

SIP自動運転（システムとサービスの拡張）

adus ; Automated driving system for universal service

葛巻 清吾

SIP-adus プログラムディレクター

2019年8月5日

Society 5.0による「交通」の新たな付加価値

新しい社会像 “Society 5.0”

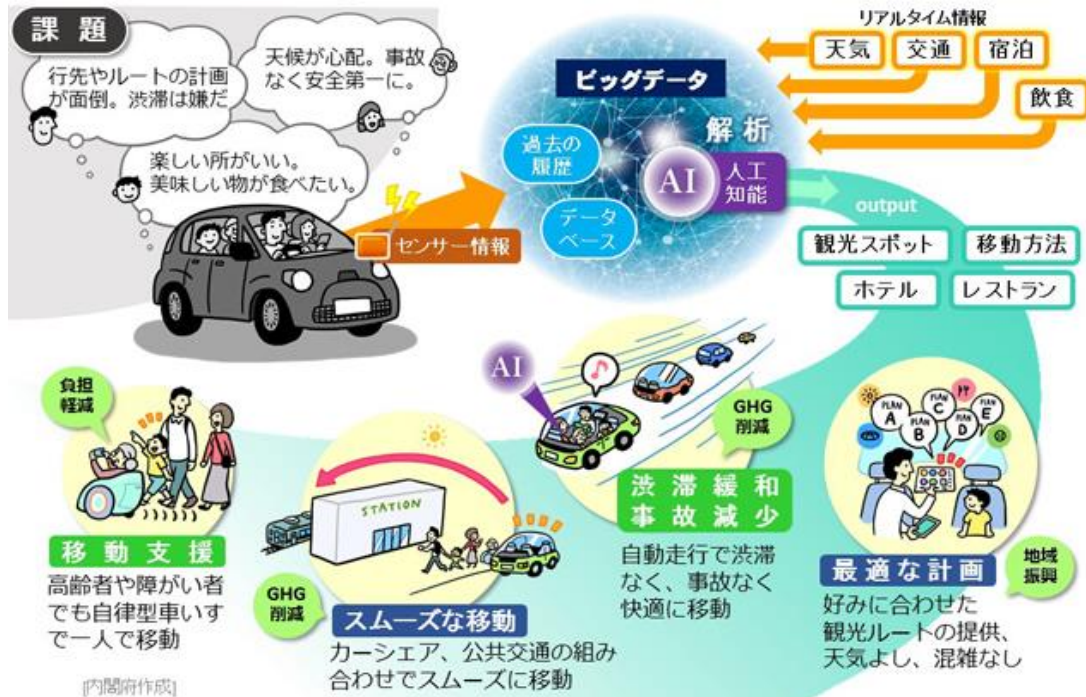
データ連携

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（実空間）の高度な融合

経済成長 + 社会課題の解決

地域、年齢、性別、言語等による格やICTスキルによらず、必要なモノやサービスが必要な時に必要な人に提供

人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会



自動運転



自動運転と言っても千差万別



使える場所 (高速道路、一般道etc.)
使える自然環境 (昼夜、雨霧etc.)
走るスピード (低速のみetc.)
半自動運転～全自動運転
自家用車～移動サービス
磁気誘導方式～自律センサー式
などなど……



自動運転を実現するために必要なこと

技術

- ・車両・インフラの自動運転技術の確立



法制度

- ・自動運転に対する法律と制度整備



社会的受容性

- ・自動運転車と認知度向上と理解促進

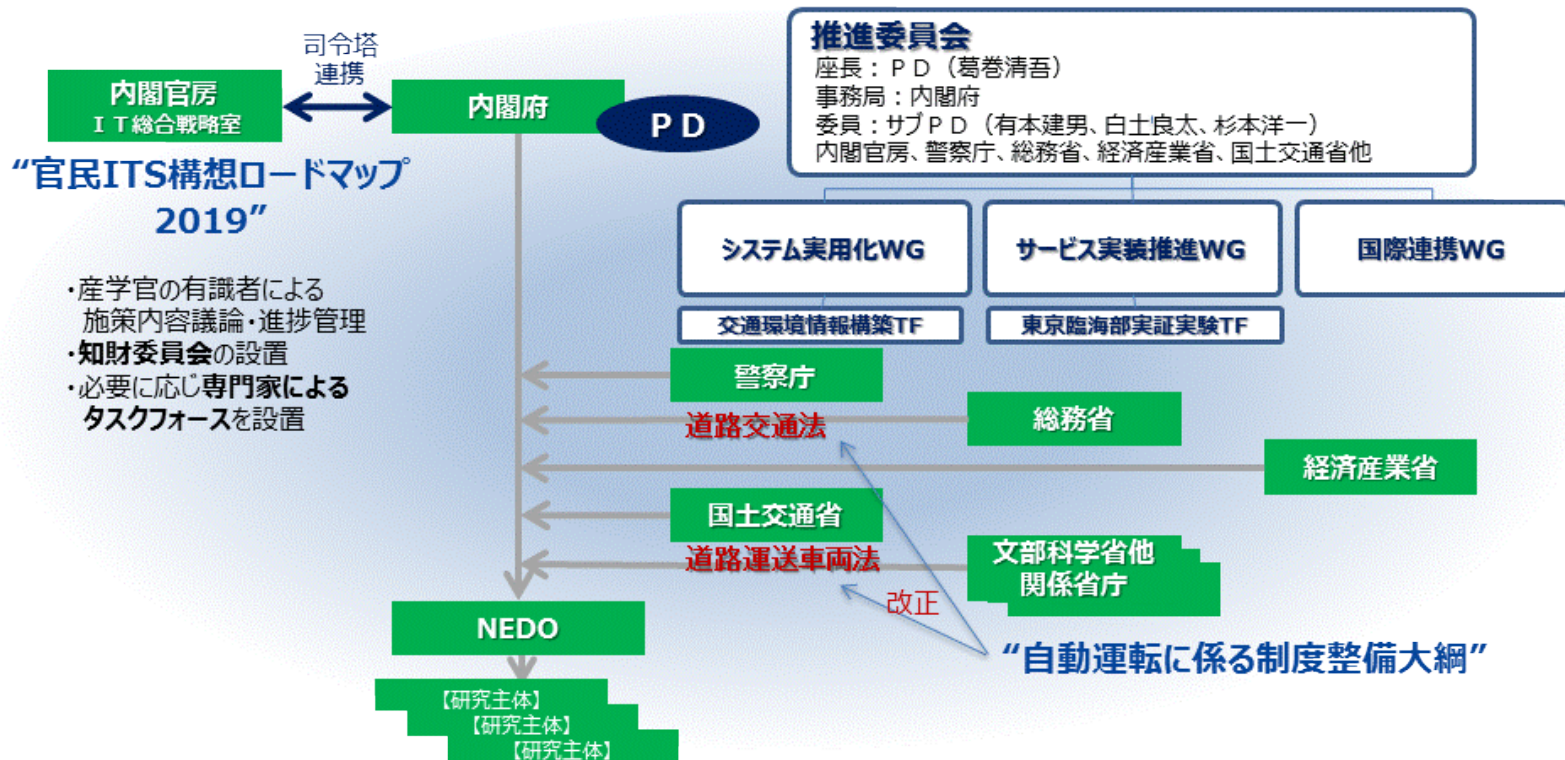


産官学連携による課題の解決

SIP自動運転 推進体制

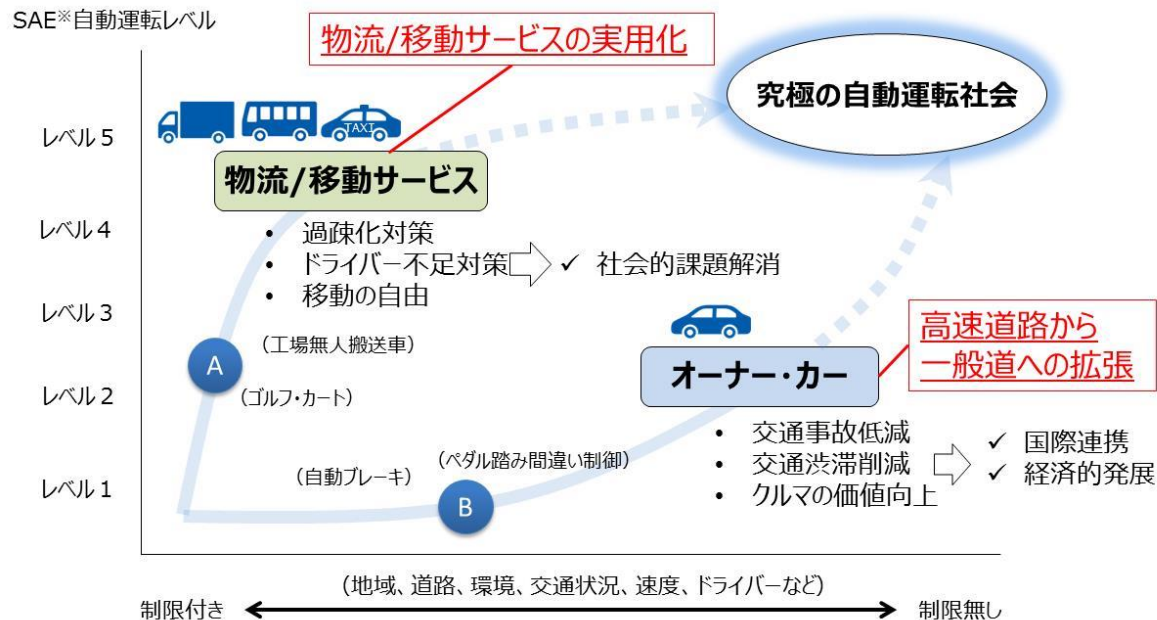


- 府省・分野の枠を超えた横断型プログラム
- 基礎研究から出口（実用化・事業化）まで 見据えて取り組み



概要（第1期から第2期へ）

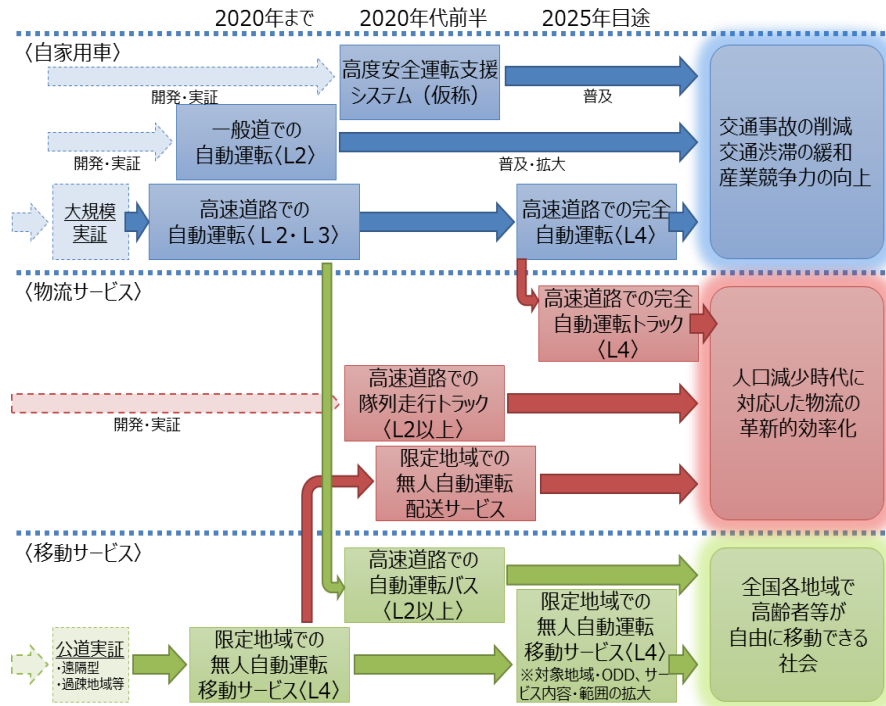
- ・自動運転の実用化を**高速道路から一般道へ拡張**するとともに
- ・**自動運転技術を活用した物流・移動サービスの実用化**することで
交通事故低減、交通渋滞の削減、過疎地等での移動手段の確保や物流業界におけるドライバー不足等の社会的課題解決に貢献し、**すべての国民が安全・安心に移動できる社会**を目指す。



目標

官民ITS構想・ロードマップ°2019

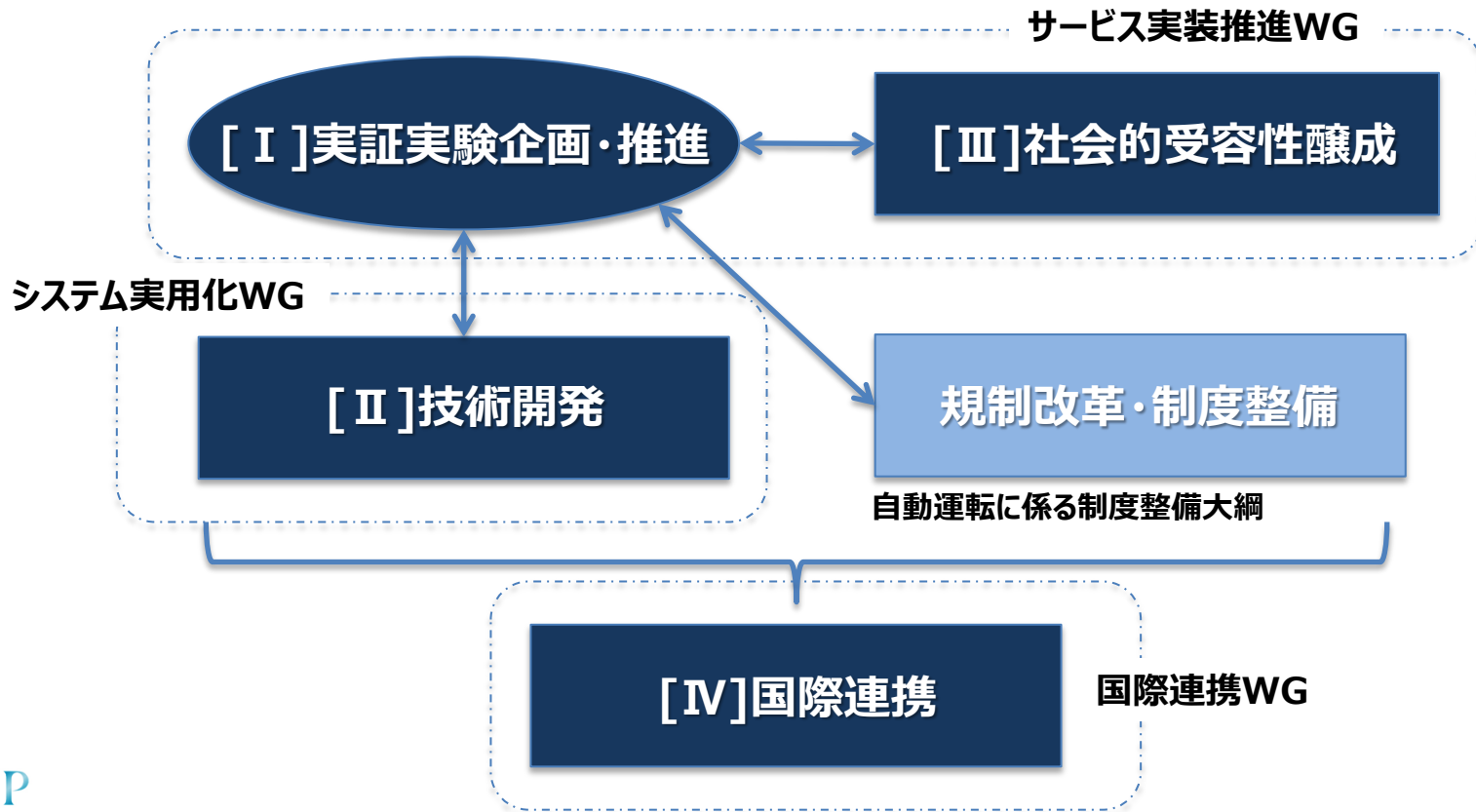
〈2025年完全自動運転を見据えた市場化・サービス実現のシナリオ〉



- ・実現に必要な**協調領域**の技術を2023年までに確立
- ・様々な**事業者・自治体**等を巻き込んだ実証実験等で有効性を確認し、**複数の実用化事例を創出**



研究開発の4本柱



東京臨海部実証実験

[I] 実証実験企画・推進

■ 2019年10月よりオリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、東京臨海地域（臨海副都心地域／羽田地区の一般道及び首都高）でオープンに参加者を募り、動的な交通環境情報に関する実証実験を開始。

信号情報提供

車載カメラで認識し難い環境下でも
信号の現示及び切替タイミング情報
を受け、安全かつ円滑な通過を実施。

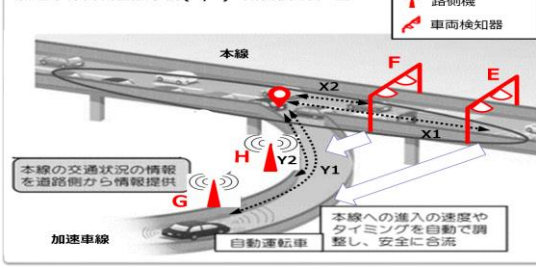


高速道本線合流支援



本線側車両情報提供

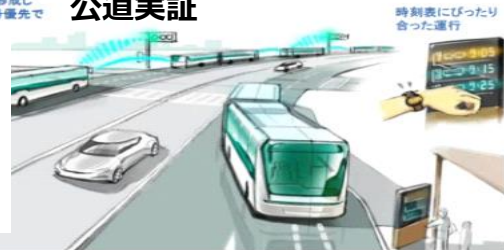
本線合流基点手前(E,F)に車両検知器を各1基、
加速車線合流基点手前(G,H)に路側機を各1基



公共交通システム（自動運転バス）



自動運転技術を活用した次世代型ARTを混流交通下において公道実証



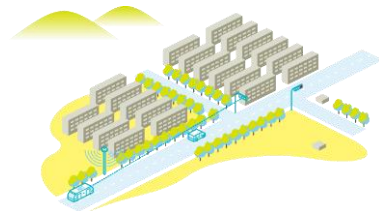
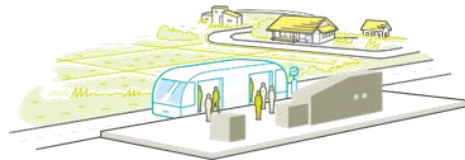
■ 過疎地、地方都市等において、**長期の実証実験**により**物流サービス・移動サービス**に対する自動運転の**事業性を検証**し、**実用化を加速**

過疎地等地域における移動/物流サービス

技術実証

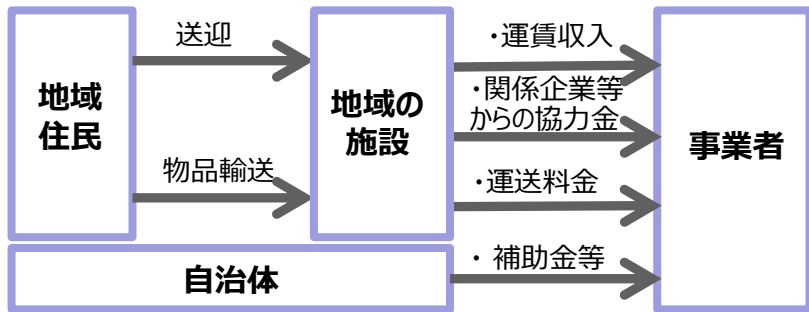


実用化・
事業化実証



事業者・地方自治体関係者の参画

(2018-19年度は長期実証を6箇所実施済み)



高齢者の多い地域や交通不便な地域での移動手段の確保



Thank you

